

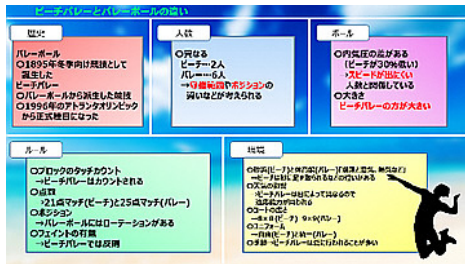
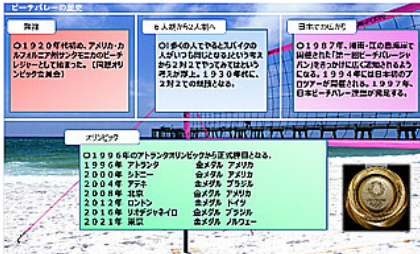
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 飯塚市立鯉田小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第5学年1組 28名 第6学年1組 38名 計66名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (○総合的な学習の時間、学級活動) ② 行事名 (○「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業講演会」) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピックによる講演及び体験交流会を通して、スポーツに対する興味関心を高めるとともに、オリンピックリズムの教育的価値である、努力の喜び・フェアプレイ・他者への尊敬・卓越性の追求・バランスのとれた身徳知を養う。
5 取組内容	(1) 事前指導 総合的な学習の時間に位置づけ、キャリア教育の視点から事前学習を行い、「ビーチバレーボール」のイメージマップ作成や、「ビーチバレーボール」の歴史調べ等を行うことで「ビーチバレーボール」を入り口としてオリンピックやスポーツに対する興味関心を高めた。    

(2) 講演会及びスポーツ交流会

オリンピックである 高尾 和行氏(アトランタオリンピック
ビーチバレーボール日本代表 現九州ビーチバレーボール連盟
会長) による講演会(スポーツ交流含む)を行った。

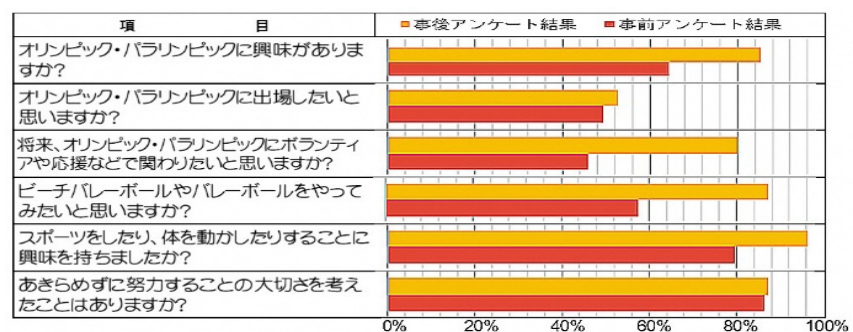


(3) 事後指導

講演会における講師の体験談やスポーツ交流を経て、学級活動の時間等を活用して、将来の夢やあきらめずに努力することの大切さ等について考えさせていった。

6 主な成果

下は、事前事後の児童の意識調査の結果である。



○どの項目も伸びが見られる。特に、「オリンピック・パラリンピックに興味がありますか？」「将来、オリンピック・パラリンピックにボランティアや応援などに関わりたいと思いますか？」「ビーチバレーボールやバレーボールをやってみたいと思いますか？」の3項目において、顕著な結果が見られた。この結果から、児童は事前指導やオリンピックによる講演及び体験交流会を通して、オリンピック・パラリンピックに対する興味関心及びスポーツに対する興味や実践意欲を高めることができたと言える。

	〈児童の感想〉 「オリンピック等で、努力をした理由がよく分かりました。高尾さんのお話を聴いたり、ビーチバレーを体験したりしてオリンピックへの興味が湧いてきました。また、努力することの大切さもよく分かりました。」 「私もチームや学級の仲間を大切にしようと思いました！私は今スイミングをやっています！諦めないで最後まで頑張ることと、仲間を大切にすることを意識していこうと思います！人生日々笑歩ということを教えてくれてありがとうございます！」 「今日の講演会で自分もすこしは、スポーツをしようと思いました。」 「話を聴いたりして僕が一番心に残ったことは、『仲間を大切にすること』です。だからこれからもっとクラスメートや出会う人を大切にしようと思います。」 ○このように、講話や体験交流会を通して、努力の喜び・フェアプレイ・他者への尊敬・卓越性の追求・バランスのとれた身徳知を養うというオリンピズムの教育的意義の一端にも触れさせることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○子どもたちは、オリンピックと接する機会はめったにないため、講演時間を長めに設定し、話を聞くだけの講演会ではなく、スポーツ交流を実施した。 ○事前指導において、「ビーチバレーボール」を入り口としてオリンピックやスポーツに対する調べ学習を実施し、興味関心を高めた。このことにより、講演・スポーツ交流や事後指導において、スポーツに対する興味関心を高め、将来の夢やあきらめずに努力することの大切さについて考えさせていくという一連の学習の流れをつくることができた。
8 主な課題等	○今回、緊急事態宣言が解除時であり、講演会だけでなく、スポーツ交流まで行うことができた。しかし、コロナ感染の状況によっては、リモートで行う等、講演を聴くだけでなく、何か双方向でのやりとりをする内容にするなど工夫する必要がある。
9 来年度以降の実施予定	○今回の実践 1 を実践 2 につなげ、教師の運動に関する指導技術の向上及び、児童のスポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図る。

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【 飯塚市立鯉田小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年1組 38名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (〇体育科、学級活動等) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	「パワーアップ5 ^(注) ボール運動バージョン(ボールを使ったサーキットトレーニング)」や、「みんなでドッジボールラリー」の練習及び、その記録会『みんなで鯰田ボール2021』の取り組みを通して、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図る。 (注) 「パワーアップ5」…児童の基礎体力の向上を目指して、年間を通して、体育科授業開始5分間に行うサーキットトレーニング。通常は、バービージャンプ、スキップ走、ラダートレーニング、連続立ち幅跳び等の運動を行っている。
5 取組内容	(1) 日本トレーニング指導者協会トレーニング指導者を招聘し、「ボール運動の指導技術」について職員研修を実施した。    



(2) オリンピアンによる講演及び体験交流会を通して、児童のスポーツに対する興味関心を高めるとともに、研修内容をもとに作成した「パワーアップ5ボール運動バージョン(ボールを使ったサーキットトレーニング)」や、「みんなでドッジボールラリー」の練習を体育科の学習等で実践した。



素早いキャッチボール



8の字ボール回し



背面キャッチ



拍手してキャッチ



タッチしてキャッチ



ボールシュート

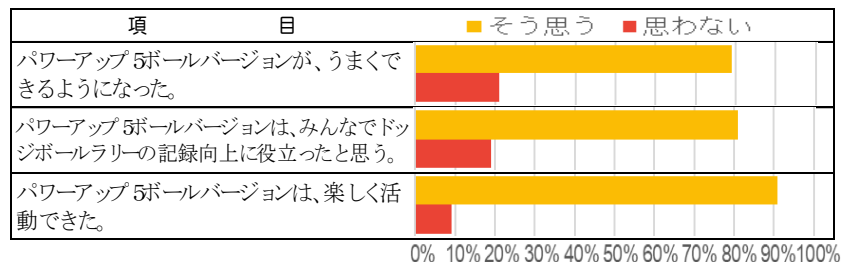
(3) 12月7日(火)に、『みんなで鯉田ボール 2021』と銘打ち、「パワーアップ5ボール運動バージョン」におけるボールを使った個人技や「みんなでドッジボールラリー」等の記録会を児童会の児童が主体となって実施した。





6 主な成果

○パワーアップ5ボール運動バージョンを開始した10月末時点での6年生の「みんなでドッジボールラリー」の記録は58回だったが、約1カ月間の実施により、記録が70.5回まで向上した。



○上のグラフは、「みんなで鯉田ボール 2021」終了後に実施したアンケートの結果である。「パワーアップ5ボールバージョンがうまくできるようになった」と答えた児童は79%、「パワーアップ5ボール運動バージョンが、みんなでドッジボールラリーの記録の向上に役立った」と感じている児童は、81%、「パワーアップ5ボール運動バージョンが楽しく活動できた」と答えた児童は91%であった。

〈児童の感想〉

「練習をしていくと、記録が伸びていくのが楽しかった。」
「ドッジボールラリーでうまく投げられるようになって楽しかったです。」

「記録会をして、みんなの記録を計るのが楽しかった。友だちがいい記録が出たときがうれしかった。」

「ボールが前より遠くに飛ばせるようになった。」

「この取り組みで、ボールのキャッチがうまくなりました。」

「いままでできなかったことができるようになってきたので、やってよかったと思いました。」

「自分の記録はこの先どのくらい伸びるか試してみたい。」

「さらにドッジボールラリーの得点を伸ばしたいです。」

「このことをきっかけに、クラスの人と仲良くなれたので、やってよかったです。」

「記録会でお互いの記録をとったり、自分の記録を知ることができたりしてよかったです。」

○このように、児童は楽しく活動し、そのことが自己のボール運動の技能向上につながり、記録向上による達成感を味わうことができたことが分かる。また、この取り組みがスポーツに対する興味・関心の向上だけでなく、集団づくりや仲間づくり、運動意欲の向上や自尊感情を高める上でも効果的であったことが分かる。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○トレーニング指導者を招聘し、「ボール運動に関する指導技術」について職員研修を実施した。 〈研修後の職員の感想〉 「パワーアップ5ボールバージョンに取り組み始めたおかげか、ドッジボールラリーの記録が向上しました。柔らかいボール(ソフトハンドボール)のおかげで、ボールが怖いと言っていた児童も、楽しく学習することができています。」 「子どもたちがボールに慣れ、ボールに対する恐怖心が少なくなった。また、ボールの行方をよく目で追うようになり、コントロールもよくなった。ボールを手から離すタイミングがよくなってきつつある。空間認知能力は確実に向上している」 「研修で聞いたことは、動きのコツなど要点が簡潔にまとまっていたため、その内容を児童に伝え、集中して取り組む姿が見られた。体育科の学習指導において、授業者の簡潔な説明というものがいかに大切かを実感した。パワーアップ5ボールバージョンを継続的に取り組むことで、ドッジボールラリーでの児童のボールの投げ方に変化が見られ、相手がとれる場所に素早く投げようとする姿を見ることができた。児童の課題や学習内容に合わせてパワーアップ5の内容を変更した意味を感じた。」 ○このように、全教職員が共通認識を持ち、体育科学習に取り組むことができた。 ○福岡県スポコン広場のチャレンジランキング「みんなでドッジボールラリー」への挑戦・記録更新を各学級の目標とすることで、6年生以外の学年の児童も「パワーアップ5ボール運動バージョン(ボールを使ったサーキットトレーニング)」や、「みんなでドッジボールラリー」の練習に取り組み、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図った。
8 主な課題等	○今回は、ボール運動に焦点を当てて取組を行ってきたため、他の種目への興味・関心を高めるまでには至らなかったため、次年度以降はボール運動以外にも力を入れていきたい。 ○緊急事態宣言の延長により、取り組みの開始が予定よりも遅れ、1ヶ月ほどの取組となってしまった。もっと長いスパンで取り組む必要があり、3学期も継続していきたい。
9 来年度以降の実施予定	○次年度も、日本トレーニング指導者協会トレーニング指導者による職員研修を継続し、運動に関する幅広い指導技術の向上を図るとともに、児童のオリンピック・パラリンピック競技をはじめスポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を継続していく。